

癒着性小腸閉塞発症と高残渣食の関係性の検証

1. 研究の対象

2017年4月1日～2023年5月18日に癒着性小腸閉塞で飯塚病院に入院された65歳以上で、入院前に介護施設に入所されていた方。

2. 研究目的・方法

術後小腸閉塞で入院した患者において、食事内容、特に食物繊維摂取量の違いが腸閉塞発症のきっかけになっているのかを明らかにすることが目的です。

本研究は飯塚病院に小腸閉塞で入院した患者を対象として行うケースクロスオーバー研究です。2017年4月1日～2023年5月18日に登録された患者が対象となっています。飯塚病院のデータセンターから、完全に匿名化され、個人の同定が不可能な形で提供される登録時のデータを用いて解析を行います。

研究期間は倫理委員会承認日～2025年3月31日となります。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者基本情報：年齢、性別、入院経路(施設、転院、転科)、食事内容・形態、食事量、症状(嘔吐、腹痛など)、診断(癒着性か否か)、薬剤(下剤、降圧薬、利尿薬)、絞扼の有無

飯塚病院のデータセンターから、完全に匿名化され、個人の同定が不可能な形で提供される登録時のデータを用いて解析を行います。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：

高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部臨床疫学講座 特任教授 佐田 憲映

TEL 088-888-2918

研究代表者：

高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部臨床疫学講座 大学院生 工藤 仁隆

TEL 088-888-2918